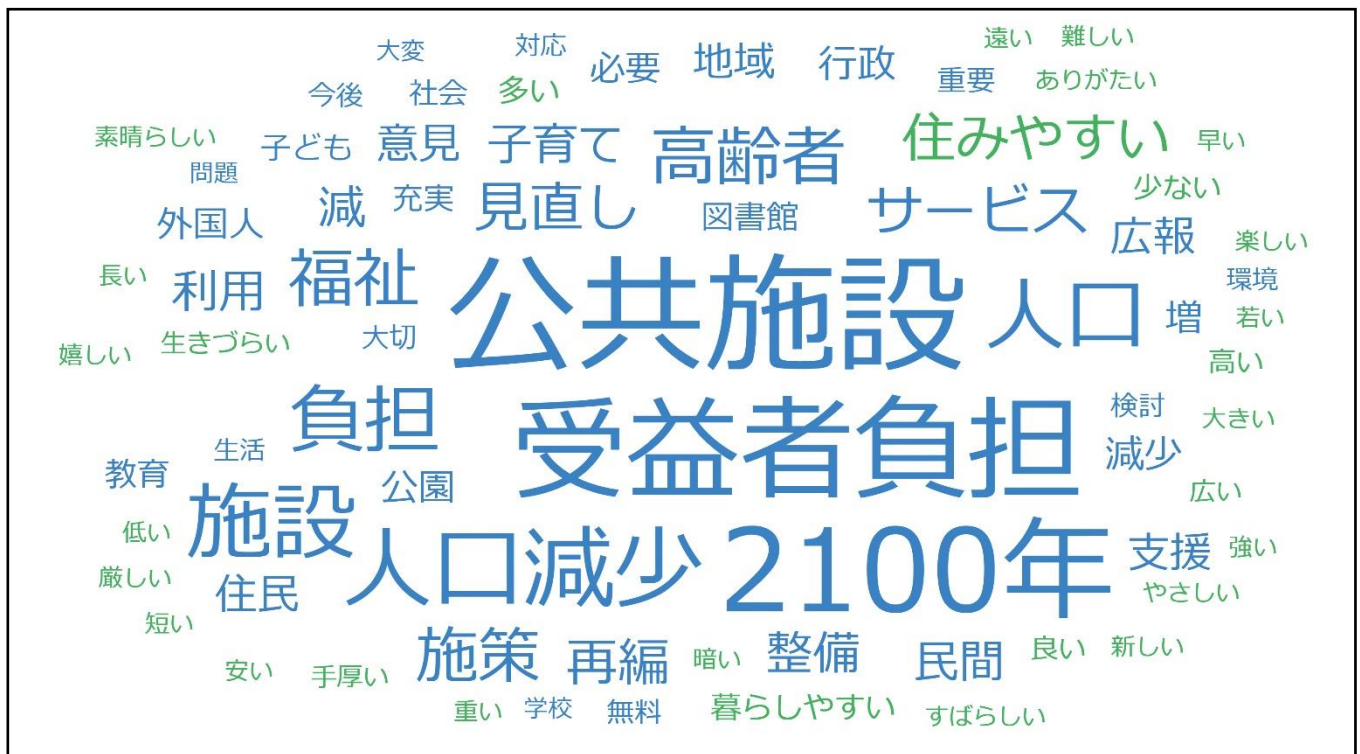


広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見
小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

広報えどがわ 8 月 15 日号でお示した内容や区の考えに対して、区民の皆さんから頂いたご意見を紹介します。

併せて、8 月 20 日に行われた、小・中学生（小学 5 年生～中学 3 年生）を対象としたワークショップにて、児童・生徒の皆さんから頂いたご意見も紹介しています。

頂いたご意見の中に多く使われている単語を“AI（人工知能）”で抽出しました
多く使われた単語が大きくなっています！【青色：名詞、緑色：形容詞】



※ユーザーローカル AI テキストマイニングによる分析（<https://textmining.userlocal.jp/>）の内容を一部加工して使用。

◆広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見

頂いたご意見は、広報えどがわ 8 月 15 日号に掲載されているカテゴリごと（「⑧その他」は追加）に分類して掲載しています。下表のカテゴリをクリックすると、該当部分が表示されます。掲載内容の整理や要約、その公表については、「江戸川区意見公募手続に関する要綱」に準じた扱いをしています。

<u>①公共施設</u>	<u>④人口減少</u>	<u>⑦高齢者</u>
<u>②受益者負担</u>	<u>⑤2100 年</u>	<u>⑧その他</u>
<u>③子育て</u>	<u>⑥福祉</u>	

◆小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見

小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

◆ 広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見

① 公共施設

- 公共施設の使用料見直しはよいと思う
- 公共施設の使用料値上げはやめてほしい
- 公共施設の集約、使用料改定により、少しでもかかっているコストを回収すべき
- 公共施設の使用料は区民と区外の人など、もっと細かな料金設定にするべき
- 公共施設は住民の福祉を増進するためのもの。現在の使用料の水準で継続してほしい
- 公共施設の再編をいうなら、庁舎の設計を見直すべき
- 公共施設の積極的な再編整備に期待している
- 誰でも利用しやすい場所に施設を作してほしい
- 地域コミュニティ活性化のために区民の負担を少なくしていた時代は終わった。施設使用料減免制度の見直しの考えには賛成。公共施設の使用料について、適正な受益者負担へ変わる時期だと思う
- 一流アーティストやプロスポーツレベルの施設へのアップグレードを目指すより、維持費のかからないベーシックなものをより多くの区民に使用してもらう方がよいのではないか
- ハコモノを整備するのではなく、より満遍なく区民の健康増進や趣味につながる政策が必要ではないか
- いろいろな方が使いやすい、親しみやすい施設にするのはよい。学校は小規模がよい。民間活力を入れてもよいと思うが、丸投げでは良くない
- 「ミニ区役所」を作って申請を楽にというのはよいが、その場合の本庁舎の役割はなにか？ 複合施設を作る際には、そこに図書館があるととてもうれしい
- 文化施設を増やしてほしい。大きな施設でなくてよいので、音楽家などが気軽に使用できる施設があるとよい
- 複合化に賛成。近距離に小規模施設が複数ある地区では光熱費等が削減できる
- 公共施設の使用料の受益者負担については、他区より安価で利用していることを利用者が一番わかっているはずなので、受け入れられると思う
- 学校を統合集約した場合、近い場所に学校があり、安心して子どもたちが通うことができることが重要だと思う
- 公共施設は複合化するとともに災害時の拠点になるとよい
- 公共施設を利用しない人との不公平感もある。そういう点で受益者負担の適正化は必要だと思う
- 使用料の見直しの際には大幅な引き上げでコミュニティが衰退しないように配慮してほしい
- 公共施設の再編整備によって生じた土地は、公園や区民農園など、区民財産として活用するべきである。売却には反対
- 施設が各々独立して存在しているよりも、赤ちゃんから高齢者までが活用できる一つにまとめた大きな施設を整備してほしい
- 大人の発達障害者支援センターを作り、当事者同士で有償ボランティア等も活用しながら、生きがいづくりができる場を創出してほしい
- やり投げの練習ができる場所を確保してほしい
- 「人口減少にあわせて公共施設の総床面積を約 3 割減らす必要があります」と断言しているが、その根拠が示されていない
- 学校の統合について慎重になるべき

広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見

小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

- 区民の生活を豊かにすることが目的の公共施設を、利益が第一の目的である民間へ委託する PPP は絶対に採用すべきではない
- 「ミニ区役所」はとてもよいと思う。土曜日に区役所が開いていると大変助かる
- 公園の遊具やトイレの管理費用を削って、壊れても修理できないのは困る
- 「ミニ区役所」を増設しても、住民は「ミニ区役所」にしか行かなくなってしまうことが想定されるため、そこでの人手が不足し、余計にコストがかかるのではないか
- 民間活用を基本としているが、責任を明確にするためにも直営部分を残したほうがよいと思う
- 利用者、特に高齢者のため、定期的に使用料や減免制度を見直す仕組みの検討をしてほしい
- 公共施設の値上げはやめてほしい。お金のことを考えずに借りられることがよい。他人のための活動をすすめている団体もある
- 施設の使用料を見直すのであれば、区内料金・区外料金の検討をするべき
- 公共施設の使用料見直しはよいと思う
- 複合施設を作っていくことに賛成
- 公共施設を延命させるといふなら、今の庁舎から延命すべき
- 公共施設の使用料値上げは反対
- 公共施設の再編整備の取り組みに賛成
- 区内の人口・職員数の減少で大きい建物は不要になるので、新庁舎の建築物の縮小を望む
- 使用料を公平にすることはいいことだと思うので、公共施設の使用料見直しに賛成
- 複合施設一か所できるとはよいと思うが、自宅から遠くなるのはよくない
- 1 時間以内に電車・バスで行ける範囲に公共施設がいくつでもあるので、もうこれ以上ハコモノはいらない
- 公共施設の再編整備、今回示された取り組み内容は必要だと思う

②受益者負担

- 公共施設の使用料見直しはよいと思う【再掲】
- 公共施設の使用料値上げはやめてほしい【再掲】
- 公共施設の集約、使用料改定により、少しでもかかっているコストを回収すべき【再掲】
- 公共施設の使用料は区民と区外の人など、もっと細かな料金設定にするべき【再掲】
- 公共施設は住民の福祉を増進するためのもの。現在の使用料の水準で継続してほしい【再掲】
- 使用料の見直しの際には大幅な引き上げでコミュニティが衰退しないように配慮してほしい【再掲】
- 地域コミュニティ活性化のために区民の負担を少なくしていた時代は終わった。施設使用料減免制度の見直しの考えには賛成。適正な受益者負担へ変わる時期だと思う【再掲】
- 公共施設の使用料の受益者負担については、他区より安価で利用していることを利用者が一番わかっているはずなので、受け入れられると思う【再掲】
- 施設を利用しない人との不公平感もある。そういう点で受益者負担の適正化は必要だと思う【再掲】
- 急に使用料を上げるのではなく段階的に少しずつ上げていくのはよい
- 区の人口予測は不透明。施設使用料の値上げ、健（検）診の一部自己負担の導入は反対

広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見

小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

- どんな人にも広く負担してもらえるように設計すべき。一部の方（障害のある方、外国籍の方、高齢者など）にだけ手厚い区には、働いている人は転居してこない
- 健（検）診の一部自己負担導入は、健（検）診を受けない区民が増加する可能性が考えられ、福祉関連費用の増大が懸念される
- 受診率アップのために、実際は区がどれくらい負担しているかも併せて明記すべきではないか。前向きな検討に期待している
- 使用料の減免制度などの見直しは、高齢者が生きがいを持って暮らすことの妨げになる
- 人口が減る中で、これまで無料だったサービスが一部有料になることは理解できる
- 単に目先の経費削減目標をクリアすることにとらわれず、負担増加によるサービス控えで表面化するリスクも同時に検討し、慎重に進めてほしい
- 健（検）診のお知らせや結果は Web にするなど工夫して、健（検）診費用自体は無料のままにしてほしい
- 健（検）診は民間に任せるべきである
- 公平な観点に立ち、最善の方策を常に施す努力を期待する
- これまで無料でできていたものを含め、何でもかんでも負担というのは賛成できない
- よいサービスを選択できるのであれば有料化も理解できる
- 「無料で実施している健診などの一部自己負担導入」は容認できない。無料だからこそ年金や給与所得が少ない中でも誰もが気軽に受けられ、区民のいのちや健康が保たれるものではないか
- みんなで一定の負担をしながら区のサービスを受けることが大事だと思う
- 受益者負担増ではなく、応能負担で高福祉を目指すべきである
- 必要なのはコストの最適化ではなく、いかに予算をここにまわすかではないか
- 目先の経費削減目標をクリアすることにとらわれず、慎重に進めてほしい
- 公の機能も大切にしながら時代にあった料金にすべき
- 使用料は公平に同じ金額を支払うべき
- 利用しない人との不公平感を解消するためにも負担の適正化は必要

③子育て

- 区は昔から子育て施策に力を入れている。「50 の子育てプラン」の推進で人口増につながるとよい
- 今の子育てに関する取り組みを維持・拡充してほしい
- 少子化対策で一番必要なのは、子育て世帯への住宅支援だと思う
- 安心して子育てができる環境を整えることを最優先にしてほしい
- 区の子ども関連の施策「えどがわ 50 の子育てプラン」は思い切った施策で、少し見直すべき内容もあるが、すすめて欲しいと思う
- 全国的に子育て支援施策が行われているが、江戸川区では支援ではなく区が子育てをするという発想で取り組む
- 給食費無償化、保育園に預けやすいなど、親への支援も大切だが、子どもに対する施策も必要だと思う
- 子どもを持つ不利益・不公平感が生じないよう今後も子育て支援を充実させてほしい
- 学校教育の充実のためにお金をかけるべきである
- 望む方の希望を叶えられる環境にしてほしい

広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見

小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

- 子どもたちの個性を伸ばしながら、それぞれの未来が自分色に輝き合う幸せな世界をつくってほしい
- 区立保育園での一時保育受け入れをしてほしい。満 1 歳児でもよいので、1 歳児クラスに 0 歳児を受け入れてほしい
- 子育て世代の人口流出を今止めるべき。70 年後の責任を取るより、今いる子どもたちを大切にすべきである
- 幼児期、学生への支援が足りない
- 子どもの医療費支援や、小中学校の給食費無償化など、本当によくやっていると思う
- 江戸川区に住み始めて、素敵な公園の多さ、子どもに優しい・うれしい公共施設やイベントの豊富さに驚き、子育て中の身として大変感謝している
- 従来の江戸川区の政策は子育て世代にも高齢者にも優しいと思う。そのため少しずつサービス面と税制面の調整を行ってほしいと思う
- 必要とする施策は家庭環境によってさまざまなので、もっと住んでいる人たちに具体的な意見を聞いて、内容を変えてみてはどうか
- 若者への住宅支援（家賃補助）が必要
- 子育てプランの充実を図ることで、少子化の進行を少しでも和らげることができればよい
- 子育て支援に更に力を入れてほしい
- 若い夫婦に向けて空き家を安く使える支援をしてはどうか
- 家族で安心して外出できる環境にするため、徹底的な分煙措置をしてほしい
- テイクアウトや外食などで幼児食の充実をしてほしい
- 結婚できるくらいの所得が得られること、住宅に対する支援が必要
- 仕事と子育てを両立できる支援をしてほしい

④人口減少

- 人口が減少しないように、江戸川区のよいところをアピールしていくべきである
- 生産性が向上することで、人口が減っても歳入を維持することは可能である
- 来庁しなくてもよい区役所なら、区の職員は減らすべきではないか
- 人口減少に対する取り組みについておおむね賛同する
- 学校で人口減少に関する教育を充実させてほしい
- 人口減少には、区民が少ない方がきめ細やかな行政サービスが行えるというメリットもある
- 将来の人口減少社会に備えて、見直しが必要であることは理解した。急激な見直しではなく、徐々に取り組んでほしい
- 人口減少は、23 区一丸となって都、国に働きかけるべきである
- 少子化対策は早急に具体化すべきである
- 社会増ではなく自然増に取り組む方向性を支持する
- 東京都との政策との整合性を考慮してほしい
- 若い人が結婚することが一番大事なので、させる工夫が必要。結婚することにより人口増加の方向になる
- 専門学校や大学等の誘致を続けて、若い人が集まる区にしてほしい
- 子どもは“地域の宝”であり、少子化対策を進めることが一番重要
- 外国人の人口割合が高いため、外国人が日本人と共生していくための具体策が必要
- 人口減少の考え方について、転入や外国人の移住などが加味されていないのでは

広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見

小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

- 利便性が下がり、魅力が減ることによる人口流出のリスクに備え、他の区より充実させる方向に舵を切るべき
- そもそも区の人口増減は出生率だけではかるものではないと思う
- 人口減少の歯止めとして、結婚適齢期の方や再婚を望む方へ出会いの場を増やしたらよいと思う
- 人口減少は国全体の課題であり様々な問題が絡み合うものである。区の人口予測は不透明なのではないか

⑤2100 年

- 2100 年に向けてどのように行動するべきか考える、子ども向けのワークショップをまたやってほしい
- 2100 年が遠い未来ではないと感じた。将来の江戸川区のために、自分にできることをやっていきたい
- 2100 年と言わず、10 年、20 年で少子化対策を早急に進めるべきである
- 2100 年を描いたことは素晴らしい。収入・支出の構成を示して、増やす・減らす・強化するところの戦略も示してほしい
- 2100 年を生きる若い人の意見を聞いたことは良かった
- これからの未来を展望するにあたり、「今だけ良ければ問題ない」といった考えは改めるべきと思った
- 2100 年に向けた取り組みはよいと思うが、達成に向けたスピードを早くしてほしい
- 早い段階から、多くの区民に理解を得るための特集は素敵。詳細を詰めていく際には、出来るだけ多くの区民の意見を聞きつつ、丁寧に進めてほしい
- 今のうちに大幅に見直していくべき。将来、歳入が増えたらサービスを増やせばよい
- 未来を語るのは重要なこと。厳しい現実も正直に伝え、区民に認識してもらうことが大切である
- 2100 年はあまりにも先過ぎる将来に感じる
- 区全体で未来を共有して何とかしようという取り組みを応援したい
- 歳入 6 割減はどんな社会になるのか不安だ
- 2100 年に向けて、今の区政が責任を負うことはない
- 取り組みの具体化かつ明確化とその周知、実践にあたっては一部の人ではなく全体を巻き込んでいくことが必要
- 区民は、区・都・国税を支払っている。その視点で区民の暮らしを守ってほしい
- 全体的にアクションプランの内容には賛成。むしろ、少子高齢化はスピード感をもって、アクションプランを実現していかないと社会変化に対応できないと思う
- 私は 2100 年には生きていない。そんな先のことでなく、今困っている事に手を差し伸べてほしい
- 2100 年というのは他に聞き覚えがない。インパクトがあり、すごいと思う
- 70 年先の物価水準も考えて検討する必要があるのではないか
- 受益者負担の増額は貧富の差による公平性の欠落につながる。誰でも公平に利用したいときに利用できるという状態を維持するべきではないか

⑥福祉

- 福祉サービスの見直しを他の自治体の水準に合わせて行うのではなく、江戸川区独自に必要な見直しを考えて実施すべき
- 他の自治体の進んだ施策を取り入れて、現在の福祉サービスをより充実させてほしい
- 福祉サービスの再構築についての取り組みは賛成

広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見

小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

- 少子化対策も大事だが、高齢者も増加するため、福祉サービスなどにも力を入れてほしい
- まだまだ高齢化率が上がる中では、持続可能な形にしていけないといけない
- 福祉サービスも聖域化せず見直してほしい
- 「必要な方に必要なサービスを」とは、区民の判断ではなく、行政が判断しているのでは？誰でも必要な方はサービスを受けられるように、累進課税を強化し収入増を図り、所得制限などは廃止してほしい
- 「必要な方に必要なサービスを届けるために福祉サービスの内容を再構築します」とあるが、不必要な人が受けているなどということがあるのか。対象を広くとって、誰もが利用しやすいサービスにすべき
- 福祉サービスを削っては、これからの社会は成立しないと思われる
- 必要な方が必要なサービスが受けられることに賛成
- 高齢者施設や障害者施設で、テクノロジー(IT・ICT)の義務化や積極的な活用を促し、職員の負担軽減や充実した介護サービス提供が今以上に出来るようにしてほしい
- 今回の広報誌のような情報発信や意見集約は良い取り組みだと思う。少子高齢化を踏まえ、介護を必要としない元気な高齢者などに対する入居支援があるとよい
- 障害者向けのサービスは現在過剰のため、大幅に削減すべき
- 福祉サービスを他区と同じレベルにすると誇れるものがなくなってしまう
- 他の自治体水準に合わせた引き下げは、江戸川区以外にも負の波及効果をもたらすのではないかと

⑦高齢者

- 使用料の減免制度などの見直しは、高齢者が生きがいを持って暮らすことの妨げになる【再掲】
- 従来の江戸川区の政策は子育て世代にも高齢者にも優しいと思う。そのため少しずつサービス面と税制面の調整を行っていけばよいと思う【再掲】
- 車いすが借りられるなど、高齢者の外出を支援してくれるサービスがあると助かる
- 今を生きる高齢者が暮らしやすい江戸川区であってこそ、未来に希望が持てる区になるのではないかと
- 高齢者向けのサービスは現在過剰のため、大幅に削減すべき
- 少子化対策の教育支援も大切だが、高齢者支援も同様に増やしてほしい
- 高齢化が進んでも身近で相談できるとなれば幸せである。寝たきり、認知症の人たちの対応をしてほしい。高齢者がスマートフォンの扱いに問題がないように支援することが大切
- 高齢者の足を止めるような受益者負担はやるべきではない
- 孤独死対策に取り組んでほしい
- 施設が集約されていくと高齢者が集まることができる居場所が減ってしまう
- 健康長寿な高齢者を増やしてほしい

⑧その他

- 住民は自治体だけに頼るのではなく、身近な部分は自分たちで取り組むことが必要である
- 将来に起こり得るリスクを捉えて正直に話していると感じる
- 行政のあり方を修正し見直す必要はあると思う

広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見

小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

- 福祉サービスの再構築や、公共施設の再編整備を想定する上で、職員や議員の定数をどのように想定しているのか
- 人口減少のリスクだけでなく科学技術の発展によるアドバンテージも検討してほしい
- サービス水準と負担についての区の考え方に賛同する。人口減少によって区のお金が減るのであれば、それは今から少しずつ調整していかないと、私たちの子ども世代が困ってしまう
- 区民負担が増える可能性が高い重大な方針について、この短い期間に決定していく過程は、あまりにも性急と考える
- 人口の観点から 100 年単位かつ国全体で見ると、どこかの時点で、難民・移民・帰化等による外国人の受け入れをより積極的に行うことを前提としたうえで、区としても、外国人も暮らしやすいまちづくりを進めていくべきではないか
- 20 年後など、もう少し近い将来の話でないと区民には響かないのでは。過度に恐れず、今の住みやすさを維持し、ブラッシュアップすることで、人口流出に歯止めをかけることになるのではないか
- 学生時代に過ごした地域で、その後も暮らす可能性は高く、若い人口の増加と税収増が見込めるため、大学を誘致すべきだと思う
- 人と人が支え合うまち、とあるが何か足りない。まず生きていくには食べなくてはならない。商店街復活とまではいかなくとも、商店ができるだけ長く生き続けられるような施策、安心して跡継ぎができるようにする必要がある
- 計画的に予防保全的な修繕をして、インフラメンテコストを削減することに賛成だ
- デジタル化を推し進め、家で何でもできるようにすることは、出かける機会を少なくするのではないか
- 素晴らしい取り組みだが、年々時代は変化するのでその都度見直しが必要だと思う
- 誰もが「自分ごと」として責任感を持つことで、コミュニティは信頼される
- 簡潔でわかりやすくまとめられている。大筋賛成だ
- 区内の交通の見直しについても言及があるとよい
- 無駄な新規事業をするよりはインフラ維持に注力するべきである
- グリーンスローモビリティ等は大変よいことだと思う
- サービス水準の見直しをする際には、江戸川区は〇〇と言ったテーマを設けて、メリハリをつけ、内外にアピールするのがよいと思う
- 一人ひとりが人生に対する意欲を培う教育改革に、すぐに取り組むべき
- 男と女は本質的に違う。平等な扱いばかりに捉われずに、違いに着目して、それぞれの特性を生かすことを考えてはどうか
- 区職員の負担軽減や外国人のためにも、ホームページ等の見やすさを工夫してほしい
- 江戸川区運営の高齢者も学生も楽しめる安い食堂を作って、地域間のコミュニティ形成を強化していくべき

◆小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

- 人口が減少しないように、江戸川区のよいところをアピールしていくべきである【再掲】
- 2100 年に向けてどのように行動するべきか考える、子ども向けのワークショップをまたやってほしい【再掲】
- 2100 年が遠い未来ではないと感じた。将来の江戸川区のために、自分にできることをやっていきたい【再掲】
- たくさんの人が 2100 年という未来の江戸川区について知り、一人ひとりできることをして次の世代につないでいく
- 2100 年のことについて、はじめはどこか他人事に考えていたが、その未来を背負っているのは私たちだと気付いた。誰かが行動するのを待っているのではなく、自ら動くことが大切なんだと改めて実感した

広報えどがわ 8 月 15 日号に寄せられた区民の皆さんの意見

小・中学生ワークショップで児童・生徒の皆さんから頂いた意見

- 点在している公共施設をひとつにまとめる
- 暮らしやすい江戸川区であるためには、ある程度の負担を増やしてもよい
- 税金を段階的に増やし、バランスを取れるようにする
- 公共施設を大切に使い、最小限の修理に留める
- 公共施設内の使用していない部屋を活用してコミュニティの場を創出する
- 充実した福祉を実現するために、税金を増やす
- あまり使用されていない公共施設を壊し、必要な施設にお金を使う
- 公共施設を広く開放し、公園の代わりに使用できるようにする
- 公共施設を減らさないために、利用者を増やす
- 子どもから高齢者まで広く触れ合える公共施設をつくる
- 将来もサービスが受けられるように無料の健（検）診を一部自己負担にする
- 行政サービスの水準を見直し、区民負担を増やす
- 行政サービスを増やして、人口増加を促す
- 子どもを産みたいと思えるような、子どもと大人が一緒に行くことができる公共施設を建てる
- 子育て支援のための助成金を支給する
- 育児に必要な物品を無償配布する
- 子育てについてアドバイスしてくれるサービスを用意する
- 政治についてもっと理解する。18 歳になったら選挙に参加する
- 魅力的な施設、公園などをつくる
- 外国人に区の魅力を知ってもらう場を創出する
- 外国人へ日本語を教える場を用意する
- 区役所からの案内や看板表示を多言語化する
- 区内外から人が呼べるような観光地を増やす
- 介護ロボットを一般家庭でできるように募金を行う
- 障害のある方への支援を増やす
- 区内の伝統産業や文化などを学び、残す
- 今の江戸川区の現状を将来に伝えるために、映像などで保存する
- 区に改善してほしいことを伝える場を設ける
- 区の機能をデジタル化し、効率向上や資源削減を目指す
- 人を差別・区別する言葉をなくしたい。一人ひとりの個性を大切にしていきたい
- 災害に負けない取り組みを行う
- ごみを減量し、再利用を徹底する
- 緑がなくならないために、伐採を減らし、手入れする人を増やす
- 緑の大切さを知ってもらうイベントを行う
- 自然環境を守り、憩いの場を創出する
- 近所の人と仲を深める
- おまつりを維持するために回数を減らして実施する
- ボランティア活動を増やし、さまざまな人が触れ合える場を用意する